

# 留学生センター

---



# 第1章 留学生センターの設置

## 第1節 設置に至るまでの状況

### 1 留学生指導相談室の設置

本学の外国人留学生数は平成元（1989）年5月現在28人であったが、平成2（1990）年5月には平成元年の約2倍の57人、平成3（1991）年5月には約3倍の90人、平成4（1992）年5月には約4倍の118人と急激に増えた。これは、国の「留学生受入れ10万人計画」を積極的に推進した結果であり、留学生数は引き続き増加することが見込まれ、全学的な留学生指導援助体制の体系化、総合化を図り、留学生に対する教育指導の充実発展の必要性が認識されるに至った。

平成4年5月11日、国際交流委員会留学生部会において、「国際交流センター」設置の歳出概算要求が決められた。しかし、同年7月の文部省議で不採択となったために、同年7月17日、留学生部会において、学内措置として「留学生指導相談室」の設置に向けて整備を図っていくことになった。同年12月18日開催の平成4年度第11回評議会で設置が承認され、平成5（1993）年1月22日開催の第12回評議会で「留学生指導相談室規則」が承認された。

施設として、人文・社会系共通教育棟1階に、留



留学生指導相談室の開室式セレモニー・上掲式 1993. 4. 28

学生相談室（22.3平方メートル）、留学生談話室（57.6平方メートル）、指導教官室（28.8平方メートル）が設置されることになった。

### 2 留学生指導相談室の運営と事業

留学生指導相談室は、指導相談室長、日本語・日本事情担当教員、留学生専門教育担当教員、各学部および教養部から選出された国際交流委員会留学生部会委員、保健管理センター教員によって組織され、指導相談室の運営に関する事項を審議するために「指導相談室運営委員会」が置かれた。

平成5（1993）年2月26日開催の留学生指導相談室運営委員会において、初代留学生指導相談室長として、増田信彦教授（経済学部）が選出され、就任した。

留学生指導相談室の業務は（1）留学生に対する日本語の課外補講、（2）留学生に対する修学・生活・異文化適応上の指導および情報提供、（3）留学生教育に必要な調査研究、（4）留学生の地域等との交流の推進および支援、（5）学生の留学、交流のために必要な情報の収集および資料の提供、（6）その他指導相談室の目的達成のために必要な業務である。

平成5年4月14日には、指導相談室の業務開始として、学部外国人留学生（新入生20人対象）のオリエンテーションが開催された。4月15日には、留学生談話室がオープンした。5月10日からは、平成5年度日本語課外補講がトヤマヤボニカからの学外講師の協力を得て、年間30週間開講された。レベル別4コース（A、B、C、D）、技能別2コース（作文、漢字）の6コース、1週間に合計20時間開講された。その後、毎年内容の充実に向け、開設クラスも整備された結果、平成8年度からは、レベル別3コース（A、B、C）と文字・漢字クラスが、1週間に合計40時間、年間30週間開講されるようになった。また、これらの課外補講に加えて、150時間前



授業風景、談話室



相談室だより創刊号の表紙

後の春季集中講座も開設されるに至った。その後、専任教員が各コースのコーディネーターを担当するようになり、きめ細かい指導がなされるようになった。

平成5年5月に「留学生指導相談室のしおり」が、同年12月に「相談室だより」(創刊号)が発行され、平成7(1995)年10月の第6号まで続けられた。

また、交流事業として、毎年50件前後の国際交流団体主催行事参加の手助けをしており、参加留学生の数は、年間延べ700人以上にのぼる。

### 3 留学生数の変遷

昭和60(1985)年5月の留学生総数は4人で、中国政府派遣留学生2人と私費留学生2人(台湾1人、韓国1人)であった。平成元(1989)年5月には6カ国28人になった。国費留学生3人(中国1人、マレーシア1人、グアテマラ1人)、マレーシア政府派遣留学生2人、私費留学生23人(マレーシア7人、



大学祭

中国8人、台湾5人、香港1人、ブラジル2人)で、私費留学生の増加が顕著である。

この後の留学生総数は、平成2(1990)年5月が平成元年の約2倍の57人(11カ国、国費留学生5人、政府派遣留学生5人、私費留学生47人)、平成3(1991)年5月が約3倍の90人(13カ国、国費留学生6人、政府派遣留学生13人、私費留学生71人)、平成4(1992)年5月が約4倍の118人(11カ国、国費留学生12人、政府派遣留学生18人、私費留学生88人)、平成5(1993)年が約5倍の139人(13カ国、国費留学生16人、政府派遣留学生21人、私費留学生102人)、平成6(1994)年が約6倍の171人(12カ国、国費留学生23人、政府派遣留学生21人、私費留学生127人)、平成7(1995)年が約7倍の194人(17カ国、国費留学生27人、政府派遣留学生17人、私費留学生150人)となり、急激な増加となった。

平成8(1996)年5月、15カ国191人(国費留学生29人、政府派遣留学生15人、私費留学生147人)、平成9(1997)年5月、13カ国196人(国費留学生31人、政府派遣留学生19人、私費留学生146人)、平成10(1998)年5月、15カ国202人(国費留学生35人、政府派遣留学生14人、私費留学生153人)、平成11(1999)年5月、15カ国197人(国費留学生40人、政府派遣留学生13人、私費留学生144人)のように、平成8年からの留学生総数の変化はほとんどみられないが、国費留学生の占める割合が、平成8年15.2%、平成9年15.8%、平成10年17.3%、平成11年20.3%と、3年間で約5%高くなっている。

私費留学生には、県費留学生を含む。

表 出身国・地域別留学生数の推移

(5月1日現在)

国籍・地域	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
中国	2	5	8	7	9	17	30	37	52	76	99	111	119	122	122
マレーシア		1	2	4	10	20	32	44	50	57	50	42	41	29	29
台湾	1			2	5	7	10	14	14	15	14	13	11	9	8
韓国	1	1	2	1		1	5	7	8	7	8	8	5	12	10
タイ									1	1	4	1	1	2	2
インドネシア						2	3	5	5	4	2	2	2	3	3
フィリピン							1	1			1	1	1		
インド						1	1	1	1	1	2			1	1
ヴェトナム						2	2	2	2	1			1	1	1
バングラデシュ						1	1				2	2	1	2	3
香港					1	2	2	2	1		1				
マカオ						1	1	1	1						
西ドイツ				1											
デンマーク											1			1	
ポルトガル										1					
ポーランド										1				1	
アメリカ									1					2	
フィンランド									1						
ルーマニア											1				
ロシア							1	4	2	5	5	5	11	15	13
タジキスタン											1				
グルジア											1				
ブラジル					2	3	1			2	1	1			
グアテマラ				1	1										
ボリビア		1	1												
ケニア											1	1			
ウクライナ												1			
メキシコ												1			
ブルガリア												1			
エジプト												1	1	1	1
イタリア													1		
アイルランド													1		
ラオス														1	1
ミャンマー															1
ナイジェリア															1
ラトヴィア															1
計	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197

図1 平成7年5月1日現在の留学生数

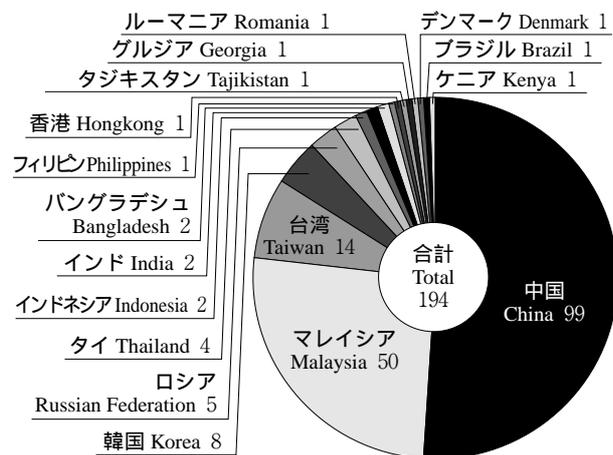


図2 平成11年5月1日現在の留学生数

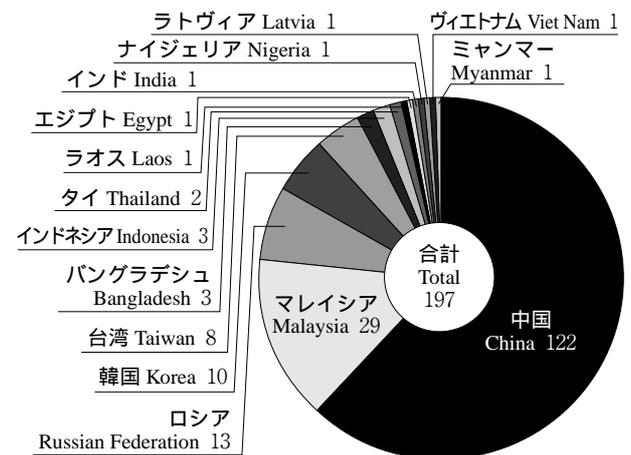
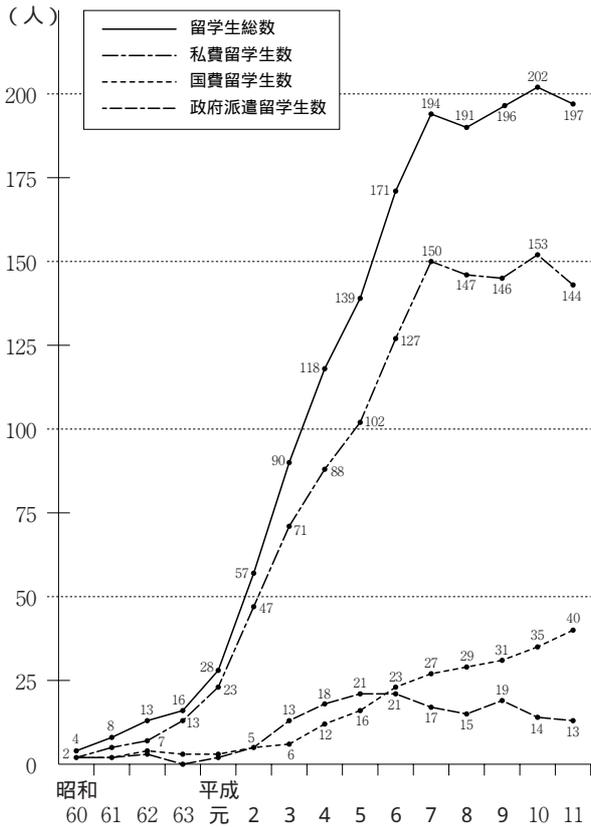


図3 留学生数の推移



## 第2節 センター設置準備委員会

平成10(1998)年秋、平成11年度文部省概算要求に留学生センターが認められ、平成11(1999)年4月に留学生センターが設置される見込みが高くなったため、留学生センターの設置準備に関する重要事項を審議するセンター設置準備委員会を置く必要が生じた。よって、平成10年度第10回国際交流委員会留学生部会(11月11日開催)および第2回国際交流委員会(11月18日開催)において、センター設置準備委員会の要項に関して検討を行った。同要項は、平成10年度第12回評議会(12月18日開催)で決定され、平成10年12月18日にセンター設置準備委員会が設置された。

センター設置準備委員会は、(1)学生部長、(2)各学部から選出された教授各1人、(3)各学部から選出された国際交流委員会委員(学術交流部会に属する委員を除く)、(4)留学生専門教育担当教員および日本語・日本事情担当教員、(5)事務局長、(6)学生部次長をもって組織された。

平成10年12月末に、概算要求を行っていた留学生

センターの設置が平成11年度政府予算案に計上されたことより、第1回センター設置準備委員会を平成11年1月20日に開催、能登谷久公学生部長が委員長に選出された。同委員会では、(1)センターに係る規則等に関する事項、(2)センター長および教員の人事に関する事項、(3)施設および設備に関する事項等について審議した。

まず、(1)センターに係る規則等に関する事項については、「富山大学留学生センター規則」、「富山大学留学生センターのセンター長及び教員選考規則」、ならびに「富山大学留学生センター日本語研修コース要項」の検討を行った。

次に、(2)センター長および教員の人事に関する事項については、初代留学生センター長として、塩澤和章教授(工学部)を候補者に選定した。また、センターの専任教員として、教育学部に所属する日本語・日本事情担当教員2人をセンター設置日をもって配置換えする手続きを進めることにした。

(3)施設および設備に関する事項については、関係の部署等に教室の共同使用等の申し出を行い、全面的な協力を得られる旨の回答を受けた。

同委員会は、平成11年2月16日までの間に計4回開催され、閉会した。

## 第3節 センターの設置

平成11(1999)年4月1日付けで、留学生センターが設置され、4月9日に表札上掲式が行われた。

同年10月8日には、日本語研修コース第1期開講式を挙行し、第1期生として5カ国5人の学生を受け入れることとなった。



表札上掲式

## 第2章 留学生センターの組織と運営

### 第1節 組織

平成11(1999)年4月1日に留学生センターが設置され、初代センター長には、塩澤和章教授(工学部)が就任した。専任教員に関しては、日本語教育部門3人(教授1、助教授2)と留学生指導部門1人(教授1)計4人がセンターに措置された。4人のうち、日本語教育部門2人は教育学部から配置換えされ、日本語教育部門1人と留学生指導部門1人は新たに公募を行った。副センター長は、センターの専任教員の中から選出され、初代副センター長には加藤扶久美教授が就任した。

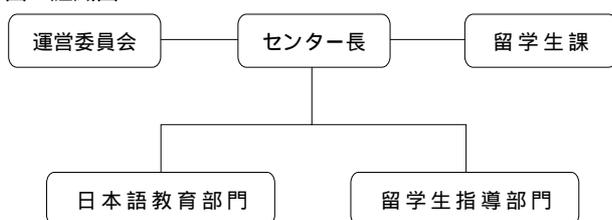
センターの組織は、センター長のもとに、専任の教員が日本語教育部門と留学生指導部門に分かれ、各々の業務に従事している。センターの管理運営に関する重要事項の審議は、センター運営委員会で行われ、また、センターの庶務は、学生部留学生課において処理されている。

### 第2節 センター運営委員会

センター運営委員会は、平成11(1999)年4月1日にセンターと同時に設置された。同委員会は、(1)センター長、(2)センターの専任の教員、(3)各学部から選出された教授1人、(4)学生部長、(5)学生部次長をもって組織され、委員長にはセンター長を充て、(1)管理運営の基本方針に関する事、(2)事業の計画および実施に関する事、(3)センター長、副センター長および専任の教員の人事に関する事、(4)予算概算の方針に関する事等についての審議を行う。

第1回のセンター運営委員会は平成11年4月9日に開催された。

図 組織図



## 第 3 章 留学生センターの施設と設備

### 第 1 節 施 設

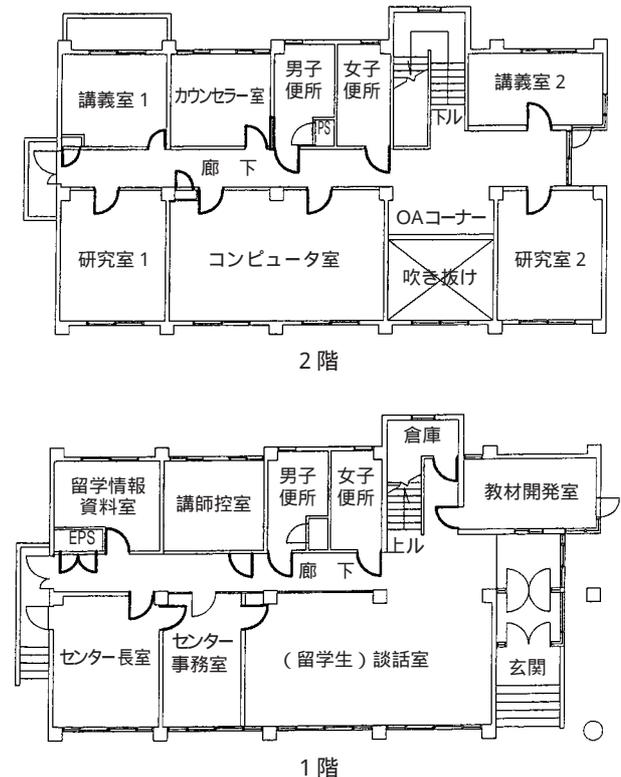
留学生センターの施設は、本学キャンパス内の黒田講堂横に位置している 2 階建ての建物が使用されている。ここは元々教職員福利厚生施設であったものが、外国人留学生のための宿泊施設に転用されて用いられていた建物であるが、平成11年度に留学生センターとして改修工事が行われた。1 階部分は面積約190平方メートルで、留学生センター長室をはじめとし、留学生談話室、センター事務室、教材開発室、非常勤講師控室、留学情報資料室から成っている。また 2 階は面積約200平方メートルで、留学生センター教員の研究室が 2 室あるほか、大学院入学前予備教育日本語研修コースのための講義室が 2 室、コンピュータ室、カウンセラー室がある（図）。

留学生センターでは、留学生指導部門の教員およびその他の教職員による相談業務がなされているほか、留学生談話室は留学生同士、あるいは留学生と日本人学生の情報交換や懇談の場として活発に利用されている。また国際交流行事などに用いられることもある。さらに、大学院入学前予備教育日本語研修コースに在籍する留学生への日本語・日本事情の授業、生活指導などは、このセンター内で行われ、留学生教育の場としても重要な役割を果たしている。



富山大学留学生センター

図 富山大学留学生センター建物平面図



しかし、もともと宿泊施設として用いられていた建物であるため、特に教室などは学生が 5～6 人入るといっばいになってしまうような狭さであることは否めず、将来的には独自棟の建設が求められている。

### 第 2 節 センターの設備

留学生センターの設備として、まずセンター 1 階の留学生談話室にコンピュータが 2 台設置され、留学生がレポート作成など学習用に用いるほか、インターネットで情報の検索や E メールを使った通信などに使用している。また、テレビやオーディオ設備なども置かれており、談話室内で留学生が談話したり休憩したりするのに用いられている。また、講師

控室には、大学院入学前予備教育および日本語課外補講を担当する非常勤講師のために、事務用コンピュータやプリンタなどが置かれている。

センター2階は、第1節でも述べたように、センター教員の研究室があるほか、大学院入学前予備教育日本語研修コースの日本語教育等に用いられてい

る。そのための設備として、講義室2室には、机、椅子、ホワイトボードのほか、テレビとビデオが備えられている。またコンピュータ室には、コンピュータが7台、プリンタが2台、さらにデータプロジェクタもあり、留学生に対するコンピュータ教育およびCAIソフトを使った日本語教育に役立っている。

## 第4章 留学生センターの業務

### 第1節 日本語研修コース

留学生センターでは、本学および富山医科薬科大学などの大学院に入学を希望している文部省国費留学生（大使館推薦）を中心とした外国人留学生などを対象に、前期と後期、各およそ6カ月間の大学院入学前予備教育日本語研修コースが開講されている。

本コースの基本理念は、留学生が日本での生活を支障なく送るためだけでなく、大学院で各自の専門の勉強や研究を進めていく上で必要な日本語を習得させることである。

コースの内容の詳細は以下の通りである。

授業時間数：前期、後期各およそ15週間で、週に約20コマ

指導担当：本センター専任教員4人および非常勤講師4人

授業内容：一般日本語（話す、聞く、読む、書くの四技能を総合的に習得させる）  
日本事情（日本人学生との交流を含む）  
コンピュータ

クラス構成：日本語を全くのゼロレベルから始めるクラスと、それ以上のレベル（レベル設定は、学生の来日後のプレイスメントテストによって決定される）のクラスの2クラス構成

以上のような日本語教育に加え、留学生が専門課

程での学習や研究に円滑に移行できるようにするために、各自の専門について、学部時に学んできたこと、今後大学院で研究したいことなどを中心に、口頭発表を行うという口頭発表プロジェクトも課している。

### 第2節 日本語課外補講

本学では、留学生センターが設置される以前から、留学生相談室が全学の留学生向けに日本語課外補講を実施していたが、留学生センターが設置されてからはそれを引き継ぎ、内容の充実に努めてきている。

課外補講の開講状況は年によっても多少の変更があるが、前期と後期に開講されており、主な内容は下記の通りである。

授業時間数：

初級クラス（ゼロ初級レベル）週11コマ

中級クラス 週7コマ

上級クラス 週5コマ

中・上級会話クラス 週1コマ

漢字クラス 週1コマ

指導担当：専任教員4人および学外講師6人

また、これらの課外補講に加えて、春季休業期間に特別補講も行われている。

### 第 3 節 留学生の指導相談

指導部門では、担当教員が以下の業務を行っている。

外国人留学生に対する、修学上・研究上、あるいは異文化適応上の指導・助言

留学生活にかかわる各種情報の提供、地域交流団体等が主催する行事案内

留学生と日本人学生の相互理解、コミュニケーション能力を涵養するための活動

日本から海外へ留学する学生に対する海外留学に関する情報提供ならびに相談

### 第 4 節 国際交流事業

留学生センターでは、各種団体が主催する行事の案内を行っている。

留学生は、伝統文化体験（日本舞踊・華道・茶道など）をはじめスポーツ対抗試合、正月ホームステイ、夏祭り、餅つき大会、雛祭り会、忘年会・新年会、各種パーティーなどへの参加、小・中・高校との異文化交流などにより地域の人々と幅広い交流をしている。

また、春と秋には、ボランティア留学生支援団体による「生活用品バザー」も開催されている。

表 平成10年度外国人留学生関係行事一覧  
国際交流団体等と主催行事

行 事 名	期 日	主 催 団 体 名	参加人数(留学生)
1 THHバザー	4月5日(日)	富山ハンド・イン・ハンド	40人
2 「ピヤガーデン」ご招待	4月20日(月)	高 志 会 館	40
3 パスハイクとパーベキュー	4月29日(祝)	富山ニュージーランド協会	7
4 ウェルネス公開講座	5月6日(水)	富山保健科学専門学校	1
5 ギョウザ講習会と中国人留学生との交流会	5月10日(日)	富山県勤労者日中友好交流センター	5
6 「県政バス教室」国際交流コース	5月16日(土)	とやま国際センター	2
7 日韓友好講演会	5月22日(金)	富山県日韓親善協会	7
8 日中友好協会祝賀会	5月23日(土)	日中友好協会	5
9 世界旅行の旅	5月24日(日)	富山市民国際交流協会	20
10 ウェルネス公開講座	6月3日(水)	富山保健科学専門学校	1
11 地図で歩く世界旅行の会	6月9日(火)	入 善 町	1
12 INTERNATIONAL FRIENDSHIP IN TOYAMA(一泊で交流会)	6月13日(土)~6月14日(日)	富山青年会議所	20
13 国際電話無料サービス	6月18日(木)	日 本 テ レ コ ム	48
14 パーベキューとジャガイモ掘り	6月21日(日)	ウィメンズウイングトヤマ	27
15 中国留学生旅行ご招待	6月21日(日)~6月23日(火)	高 松 メ ッ キ	45
16 国際交流ミニ運動会	6月27日(土)	婦 翔 会 富 山 支 部	40
17 ビーチバレーボールとパーベキュー大会	6月28日(日)	富 山 県 青 船 会	38
18 着物着付け教室	7月2日(木)	装 道 き も の 教 室	35
19 INTERNATIONAL FRIENDSHIP IN TOYAMA(子供達との交流会)	7月12日(日)	富山青年会議所	20
20 地図で歩く世界旅行の会	7月14日(火)	入 善 町	1
21 「おわら踊り」講習会	7月23日(木)	装 道 き も の 教 室	20
22 「JAPAN TENT」	7月30日(木)~8月6日(日)	JAPAN TENT実行委員会	5
23 母親大会(発表者として)	8月1日(土)	日本母親大会実行委員会	1
24 パーベキュー大会	8月1日(土)	富山県日韓親善協会	5
25 富山まつり「おわら踊り」	8月8日(土)	富山市民国際交流協会	10
26 地図で歩く世界旅行の会	8月11日(火)	入 善 町	1
27 北海道・国際交流のつどい	8月15日(土)~8月30日(日)	北海道国際交流協会	1
28 地図で歩く世界旅行の会 交流パーティー	8月30日(日)	入 善 町	7
29 地図で歩く世界旅行の会	9月8日(火)	入 善 町	1
30 「日本舞踊」日本伝統文化の紹介	9月27日(日)	富山市民国際交流協会	20
31 国際交流フェスティバル	10月10日(祝)~10月11日(日)	国際交流フェスティバル実行委員会	40
32 中国雲南省「音楽と踊り」	10月12日(月)	日中友好協会	35
33 地図で歩く世界旅行の会	10月13日(火)	入 善 町	1
34 カルデラ見学会	10月13日(火)	建設書立山砂防工事事務所	4
35 ウェルネス公開講座	10月14日(水)	富山保健科学専門学校	1
36 インターナショナルメールガイダンス	10月21日(水)	富山中央郵便局	30
37 韓国料理講座	10月24日(土)	韓 国 観 光 公 社	2
38 第10回・国際英語弁論大会 in Toyama	10月25日(日)	国際英語弁論大会実行委員会	2
39 「茶道」日本伝統文化の紹介	10月25日(日)	富山市民国際交流協会	30
40 韓国映画鑑賞の夕べ	10月25日(日)	韓 国 観 光 公 社	5
41 ステキなあしたにクリック	10月31日(土)	ウィメンズウイングトヤマ	3
42 第19回「とやま外国人による日本語弁論大会」	11月1日(日)	富 山 県 青 船 会	2
43 THHバザー	11月8日(日)	富山ハンド・イン・ハンド	40
44 日本・中国歌合戦	11月8日(日)	高 岡 鳩 の 会	1
45 鑑賞の映画上映会	11月14日(土)	韓 国 映 画 上 映 委 員 会	3
46 地図で歩く世界旅行の会交流パーティー	11月15日(日)	入 善 町	8
47 「華道」日本伝統文化の紹介	11月15日(日)	富山市民国際交流協会	12
48 交番のポリス講座	11月17日(火)	五 福 交 番	26
49 交通安全キャンペーン	11月17日(火)	ライオンズクラブ	20
50 ウェルネス公開講座	11月18日(水)	富山保健科学専門学校	1
51 檜尾小学校「中園祭」	11月21日(土)	八尾町立檜尾小学校	3
52 ほくりく国際交流学生フォーラム	11月27日(金)~11月28日(土)	北 陸 建 設 弘 済 会	20
53 お巡りさんと留学生のふれあいトーク	12月9日(水)	富 山 県 警 察 本 部	13

富山大学主催行事

行 事 名	期 日	開 催 場 所	参加人数
1 工学部 外国人留学生実地見学旅行	7月27日(月)~7月28日(水)	伊 勢 ・ 名 古 屋 方 面	43人
2 外国人留学生と教職員の見学旅行	9月25日(金)~9月26日(土)	能 登 青 年 の 家	40
3 経済学部外国人留学生実地見学旅行	11月7日(土)~11月8日(日)	四 国 方 面	41
4 外国人留学生等との懇談会(学長主催)	12月8日(火)	名 鉄 ト ヤ マ ホ テ ル	207